

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 2 0 0 8 年 1 1 月 調査結果 —

2 0 0 8 年 1 1 月 2 8 日
日 本 商 工 会 議 所

< 結果のポイント >

- 1 1 月の全産業合計の業況 D I は▲ 6 6 . 7 と、調査開始以来の最悪の水準 (▲ 6 6 . 9。9 8 年 8 月) に迫る厳しい結果となった。また、全産業合計の採算 D I も▲ 5 9 . 7 と、9 8 年 1 0 月以来の低水準。
- 業種別では、米国金融危機の影響や世界経済の減速により、受注が急減している製造業や、卸売業の落ち込みが激しい。採算 D I は、製造業は 0 1 年 1 2 月以来、卸売業は 0 2 年 2 月以来の低水準。
- さらに、先行きへの不安から消費マインドが冷え込み、売上が減少する一方、原油や一部原材料価格は下落しているものの、仕入コストは依然として高止まりで推移していることから、更なる採算悪化を訴える声も多い。
- また、中小・小規模企業の倒産・廃業の増加により、従業員 D I は▲ 1 0 . 8 と過剰感が強まっており、0 3 年 8 月以来の水準となった前月から低水準で推移。

☆ L O B O 調査は、地域における毎月の景気動向を調査するものであり、当該月の景況に係る調査結果を最も早く集計・公表しております (1 9 8 9 年 4 月調査開始)。

◇ 調査期間：2 0 0 8 年 1 1 月 1 4 日～2 0 日

◇ 調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 7 7 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 1 製造業 6 1 5 卸売業 2 3 5
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 0

◇ 調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況 (D I 値を集計) および業界として当面する問題など

※ D I 値 (景況判断指数) について

D I 値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

【本件担当】産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【2008年11月調査結果の概要】

米国金融危機の影響が本格化、業況DIは98年9月以来の低水準

- 11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲64.6）よりマイナス幅が2.1ポイント拡大して▲66.7となり、98年9月以来の低水準となった。

産業別の業況DIは、建設、サービスでマイナス幅が縮小したものの、他の3業種では拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、原油価格の下落により、今後の採算の改善を期待といった声があるものの、各種原材料価格の高止まりや受注の急減、消費マインドの冷え込みにより、収益面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響による先行きへの不安や売上の減少、金融機関の貸出姿勢の更なる厳格化などを訴える声が非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月に引き続き強まっている。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業 ～業況DIは引き続き低水準で推移～】

- ・「受注の減少に伴う競争激化により受注価格が低下し、収益が悪化」（一般工事業）
- ・「資材価格の高騰は落ち着いてきたものの、採算は依然として厳しい状況」（一般工事業）
- ・「公共工事の大幅な減少に加え、金融機関の貸出姿勢も厳格化」（建築工事業）

【製造業 ～業況DI、採算DIは01年12月以来の低水準～】

- ・「金融不安や株価下落の影響により、金融機関による融資の査定に厳しい対応が見られる」（水産食料品製造業）
- ・「受注が減少する一方、鋼材等の仕入価格は依然として上昇しており、収益を圧迫」（一般産業用機械製造業）
- ・「受注量は対前年比で2～3割程度減少。受注先からの大幅なコストダウン要請も見込まれ、さらに厳しい状況」（自動車・附属品製造業）

【卸売業 ～採算DIは02年2月以来の低水準～】

- ・「過去に仕入れた原材料の在庫があるため、販売価格の引き下げは難しく、今後も厳しい状況が続く見込み」（農畜産水産物卸売業）
- ・「消費者の買い控えによる売上の減少など、年末に向けて業況の更なる悪化を懸念」（農畜産水産物卸売業）
- ・「建築関係の受注は少なく、今後も収益確保は厳しい見込み」（建築材料卸売業）

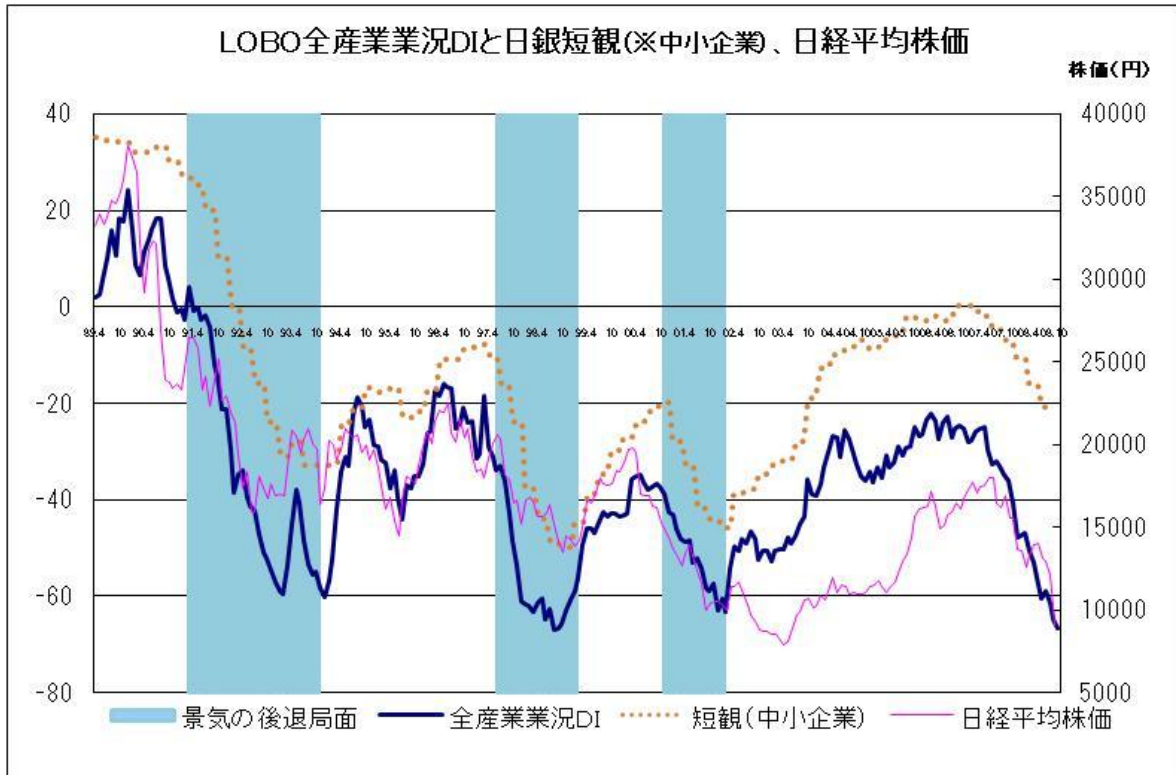
【小売業 ～採算DIは99年1月以来の低水準～】

- ・「対前年比での来客数の落ち込みは少ないが、購入単価や販売点数の減少が顕著」（百貨店）
- ・「前月から消費者の購買力の低下が見られ、特に衣料品や宝飾品の売上が厳しい状況」（百貨店）
- ・「売上は対前年比で20～30%減少と最悪の状況」（商店街）

【サービス業 ～業況DIは引き続き低水準で推移～】

- ・「忘年会・新年会の予約が例年に比べ大幅に減少」（食堂・レストラン）
- ・「来客数の減少に加え、電気・ガス料金の値上げや、食材の仕入価格の高騰により、収益が悪化」（他の一般飲食店）

- ・「来客数は前年同月比で減少、年末・年始を含め、今後の予約も少なく、厳しい状況」（旅館）



※短観（中小企業）：資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

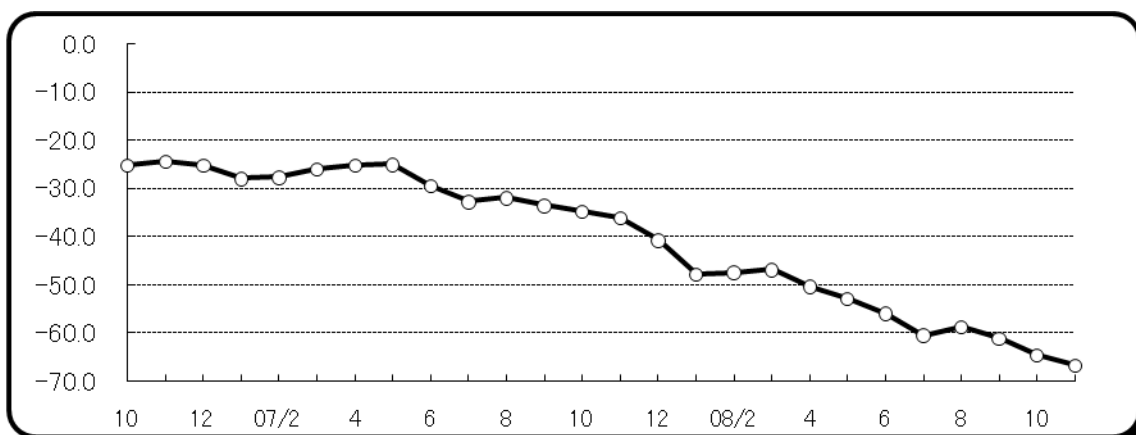
- 11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲64.6）よりマイナス幅が2.1ポイント拡大して▲66.7となり、98年9月以来の低水準となった。
- 産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、サービスはほぼ横ばい、他の3業種では拡大した。中でも、製造は01年12月、卸売は02年2月以来の低水準。
- 向こう3カ月（12月～09年2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲60.6と、昨年同時期の先行き見通し（▲34.9）に比べて25ポイント以上悪化している。
- 産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、18ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12～2月 |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業 | ▲56.0 | ▲60.5 | ▲58.8 | ▲61.2 | ▲64.6 | ▲66.7 | ▲60.6 (▲34.9) |
| 建設 | ▲67.7 | ▲73.2 | ▲71.4 | ▲70.8 | ▲71.1 | ▲70.0 | ▲68.6 (▲50.2) |
| 製造 | ▲52.4 | ▲61.3 | ▲55.4 | ▲59.8 | ▲59.8 | ▲68.3 | ▲62.4 (▲31.7) |
| 卸売 | ▲52.6 | ▲64.5 | ▲64.7 | ▲59.7 | ▲63.8 | ▲67.6 | ▲54.9 (▲36.5) |
| 小売 | ▲57.7 | ▲54.4 | ▲58.9 | ▲59.2 | ▲64.4 | ▲64.8 | ▲60.9 (▲33.6) |
| サービス | ▲51.2 | ▲56.8 | ▲51.4 | ▲59.7 | ▲65.9 | ▲64.6 | ▲55.4 (▲29.4) |

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年11月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



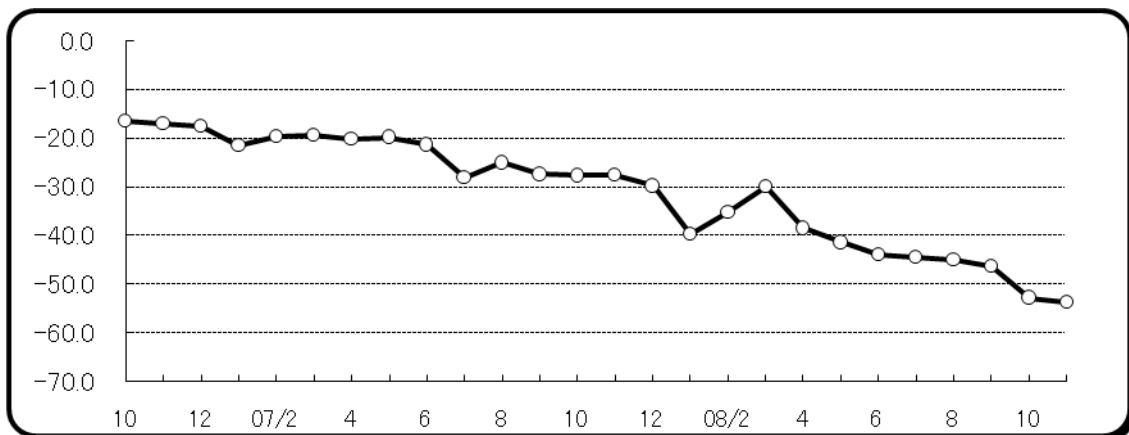
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.9ポイント拡大して▲53.8となり、8カ月連続で悪化した（02年2月以来の低水準）。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、小売はほぼ横ばい、サービスで横ばいだったものの、他の2業種では拡大した。中でも、製造は02年3月以来の低水準。
- 向こう3カ月（12月～09年2月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲51.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.4）に比べ26ポイント以上悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で14ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12～2月 |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業 | ▲44.1 | ▲44.6 | ▲45.2 | ▲46.5 | ▲52.9 | ▲53.8 | ▲51.7 (▲25.4) |
| 建設 | ▲62.2 | ▲62.6 | ▲58.9 | ▲63.1 | ▲65.3 | ▲62.8 | ▲65.4 (▲46.2) |
| 製造 | ▲33.0 | ▲39.7 | ▲41.0 | ▲41.6 | ▲47.7 | ▲51.2 | ▲54.7 (▲22.8) |
| 卸売 | ▲39.2 | ▲42.6 | ▲46.0 | ▲43.6 | ▲42.3 | ▲50.0 | ▲39.4 (▲25.2) |
| 小売 | ▲48.7 | ▲39.9 | ▲47.3 | ▲44.0 | ▲55.0 | ▲53.9 | ▲48.8 (▲20.8) |
| サービス | ▲40.2 | ▲44.5 | ▲37.6 | ▲45.4 | ▲52.0 | ▲52.0 | ▲47.9 (▲20.4) |

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



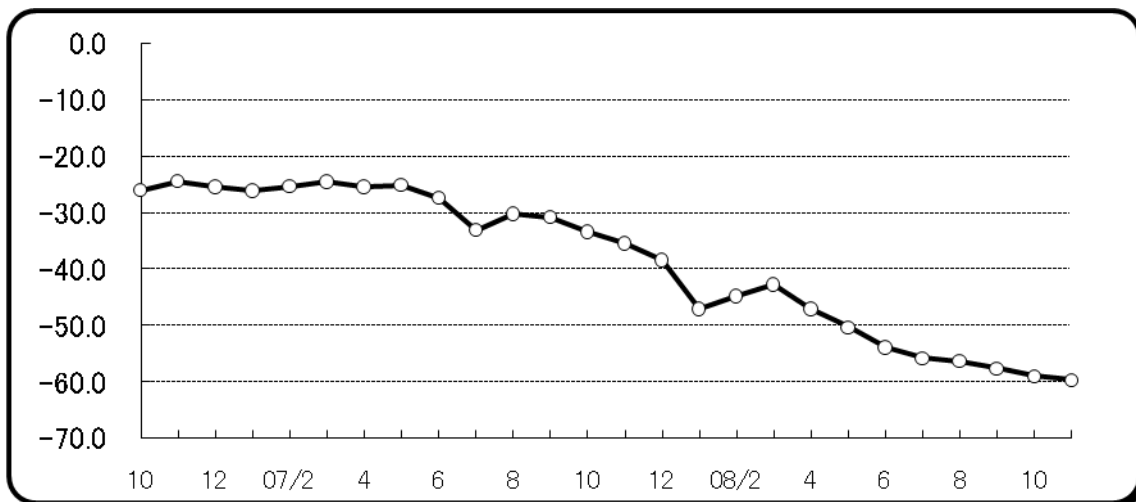
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.6ポイント拡大して▲59.7となり、8カ月連続で悪化した（98年10月以来の低水準）。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、サービスはほぼ横ばい、他の3業種では拡大した。中でも、製造は01年12月、卸売は02年2月、小売は99年1月以来の低水準。
- 向こう3カ月（12月～09年2月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲53.2と、昨年同時期の先行き見通し（▲33.3）に比べて約20ポイント悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で15ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I（前年同月比）の推移

| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12～2月 |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業 | ▲54.0 | ▲55.9 | ▲56.4 | ▲57.7 | ▲59.1 | ▲59.7 | ▲53.2 (▲33.3) |
| 建設 | ▲70.9 | ▲70.1 | ▲70.4 | ▲70.8 | ▲70.1 | ▲67.5 | ▲64.5 (▲49.4) |
| 製造 | ▲54.4 | ▲58.1 | ▲59.0 | ▲60.9 | ▲60.3 | ▲62.4 | ▲56.9 (▲36.5) |
| 卸売 | ▲44.2 | ▲49.0 | ▲55.3 | ▲51.7 | ▲50.3 | ▲57.7 | ▲42.3 (▲26.4) |
| 小売 | ▲48.2 | ▲46.8 | ▲49.2 | ▲51.5 | ▲53.9 | ▲55.1 | ▲50.7 (▲28.5) |
| サービス | ▲53.0 | ▲57.9 | ▲53.0 | ▲55.7 | ▲60.4 | ▲58.2 | ▲49.3 (▲28.0) |

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12~2月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業 | ▲ 31.9 | ▲ 37.8 | ▲ 37.2 | ▲ 37.9 | ▲ 41.3 | ▲ 41.5 | ▲ 41.6 (▲ 22.7) |
| 建設 | ▲ 46.6 | ▲ 52.3 | ▲ 56.3 | ▲ 52.0 | ▲ 55.0 | ▲ 55.2 | ▲ 53.9 (▲ 37.7) |
| 製造 | ▲ 34.2 | ▲ 36.0 | ▲ 37.7 | ▲ 38.2 | ▲ 43.8 | ▲ 44.9 | ▲ 48.0 (▲ 21.8) |
| 卸売 | ▲ 27.5 | ▲ 32.2 | ▲ 32.2 | ▲ 30.5 | ▲ 32.1 | ▲ 37.0 | ▲ 35.6 (▲ 19.9) |
| 小売 | ▲ 26.2 | ▲ 31.2 | ▲ 32.7 | ▲ 30.8 | ▲ 35.1 | ▲ 34.9 | ▲ 32.6 (▲ 19.1) |
| サービス | ▲ 27.5 | ▲ 39.9 | ▲ 30.5 | ▲ 39.6 | ▲ 40.2 | ▲ 38.1 | ▲ 39.6 (▲ 19.3) |

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは3カ月連続で悪化した(02年2月以来の低水準)。産業別にみると、D I値のマイナス幅は小売、サービスはほぼ横ばい、他の3業種では拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12~2月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業 | ▲ 59.8 | ▲ 59.4 | ▲ 60.9 | ▲ 58.0 | ▲ 55.1 | ▲ 49.6 | ▲ 33.3 (▲ 39.9) |
| 建設 | ▲ 71.5 | ▲ 70.4 | ▲ 71.3 | ▲ 62.5 | ▲ 61.4 | ▲ 55.7 | ▲ 38.6 (▲ 47.6) |
| 製造 | ▲ 68.1 | ▲ 65.4 | ▲ 70.4 | ▲ 64.2 | ▲ 62.5 | ▲ 54.7 | ▲ 31.3 (▲ 48.9) |
| 卸売 | ▲ 48.7 | ▲ 51.0 | ▲ 46.7 | ▲ 45.6 | ▲ 45.0 | ▲ 36.6 | ▲ 29.1 (▲ 31.9) |
| 小売 | ▲ 52.6 | ▲ 52.8 | ▲ 53.7 | ▲ 54.6 | ▲ 50.0 | ▲ 44.9 | ▲ 32.2 (▲ 32.8) |
| サービス | ▲ 56.1 | ▲ 57.0 | ▲ 58.4 | ▲ 57.7 | ▲ 53.4 | ▲ 51.2 | ▲ 35.2 (▲ 37.0) |

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲49.6となり、上昇感が3カ月連続で弱まった。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12～2月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業 | ▲ 7.9 | ▲ 9.0 | ▲ 8.1 | ▲ 7.6 | ▲ 11.1 | ▲ 10.8 | ▲ 12.0 (▲ 4.4) |
| 建設 | ▲ 25.6 | ▲ 28.0 | ▲ 28.6 | ▲ 25.8 | ▲ 28.6 | ▲ 28.7 | ▲ 28.6 (▲ 16.6) |
| 製造 | ▲ 9.1 | ▲ 9.8 | ▲ 7.7 | ▲ 8.0 | ▲ 13.4 | ▲ 13.8 | ▲ 17.2 (▲ 10.5) |
| 卸売 | ▲ 10.4 | ▲ 13.5 | ▲ 14.0 | ▲ 14.3 | ▲ 13.4 | ▲ 11.3 | ▲ 12.1 (▲ 11.6) |
| 小売 | 0.2 | ▲ 2.6 | ▲ 1.4 | 0.5 | ▲ 3.3 | ▲ 3.5 | ▲ 2.8 (3.9) |
| サービス | ▲ 3.1 | ▲ 1.3 | 0.0 | ▲ 2.3 | ▲ 5.2 | ▲ 4.1 | ▲ 6.8 (3.2) |

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の過剰感は前月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値は卸売、サービスで若干弱まったものの、他の3業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみても、小売、サービスで過剰に転じ、他の3業種は過剰感が強まる見通し。

【2008年11月の景気キーワード】

○ 先行き不安感の拡大

各業種から、業況の悪化や、米国金融危機の影響に伴う、先行きへの不安を訴える声が寄せられている。建設業からは、「金融不安の影響に伴う管内の景気悪化により、民間設備投資意欲の減退を懸念」（帯広・一般工事業）、製造業からは、「金融危機に伴う米国の不況により自動車関連産業は大きく影響を受けており、今後の収益の悪化を懸念」（佐野・金属加工機械製造業）、「大口ユーザーである鉄鋼メーカーの減産が、今後の受注に影響する見込み」（岡山・耐火物製造業）との声が寄せられている。また、卸売業からは、「不況に伴う消費の低迷により、年末商戦は一段と厳しくなる見込み」（旭川・食料・飲料卸売業）、サービス業からは、「外国人観光客の減少により低価格競争が発生する可能性があり、収益の悪化を懸念」（札幌・旅館）との声がある。

○ 仕入コストの高止まり

原油価格は下落しているものの、仕入コストは依然として高止まりで推移しており、各業種から採算への悪影響などを訴える声が寄せられている。製造業からは、「原材料価格の高騰分を製品価格に転嫁できず、収益確保は厳しい状況」（千葉・印刷業）、「原油価格は下落したが、関連商品の価格は下がっておらず、採算の悪化が続いている」（弘前・電子部品製造業）、「材料費の高騰や住宅着工の減少で、相変わらず厳しい状況」（製材木製品製造業）、卸売業からは、「仕入価格の高騰と売上の減少で、収益は悪化」（土別・各種商品卸売業）との声がある。また、小売業からは、「原油価格は下落傾向にあるものの、食料品価格の上昇が経営を圧迫」（豊橋・商店街）、サービス業からは、「食料品価格の高騰が続く一方、売上が減少し採算が悪化。廃業・倒産の瀬戸際で非常に厳しい」（他の一般飲食店）、「仕入価格は依然として高水準で推移しており、採算は厳しい状況」（館山・旅館）といった声も寄せられている。

○ 消費マインドの冷え込み

食料品をはじめとする諸物価の高騰や、米国金融危機の影響に伴う今後への不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。製造業からは、「生活不安感の高まりから、年末需要に対する受注は厳しい見込み」（函館・水産食料品製造業）、「百貨店・量販店ともに売上が減少しており、秋冬物衣料の今後の受注が不確定」（酒田・織物外衣製造業）、小売業からは、「世界的な金融不安の影響により、食料品や住居関連の売上が厳しい状況」（古河・百貨店）、「消費マインドが急激な冷え込みから、高額商品の売上が悪化」（横浜・百貨店）、サービス業からは、「昨年に比べ忘年会の予約が減少。廃業する店舗も増加する見込み」（福山・食堂・レストラン）、「開業以来、売上は最悪」（大府・理容業）といった声がある。

【景気キーワードの推移】

| 年 月 | 景気キーワード | | |
|--------|-----------|-------------|-------------|
| 08年 9月 | 更なる悪化への懸念 | 仕入コストの更なる上昇 | 消費意欲の低下 |
| 10月 | 先行き不安感の拡大 | 仕入コストの高止まり | 消費マインドの冷え込み |
| 11月 | 先行き不安感の拡大 | 仕入コストの高止まり | 消費マインドの冷え込み |

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

※本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】

| 産 業 | 概 況 |
|------|---|
| 建 設 | 業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「全国的に経験したことのない不況の波が押し寄せており、今後の貸し渋り、貸しはがしの発生を懸念」、「少なくなった公共工事を受注できても、請負単価が厳しく採算が合わない」（ともに一般工事業）、「入札方法が指名競争入札から一般競争入札に変わり、総合評価方式になる工事が多く、特に小規模企業では受注が困難な状況」（建築工事業）、「資材価格の上昇や住宅着工件数の減少など、厳しい状況が続いている」（管工事業）といった声が寄せられる一方、「原油価格の下落が続けば、冬場の工事費用など経営面に好影響」（一般工事）との声も寄せられている。 |
| 製 造 | 業況D I、採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは8カ月連続でマイナス幅が拡大した。「受注は短納期で少量の注文のみで、全体的にかつてないほど厳しい状況」（ニット・シャツ製造業）、「金融機関の貸出姿勢が、一層厳しくなっている」（他の衣服製造業）、「受注の減少により残業がなくなり、従業員の給与も減少」（鉄素形材製造業）、「国内の自動車販売の低迷と輸出台数の急激な落ち込みは、過去に例を見ないほどの状況」（金属製品製造業）、「業況の悪化に伴い、受注のキャンセルや得意先の倒産を懸念」（他の輸送用機器製造業）といった声が寄せられている。 |
| 卸 売 | 業況D Iは2カ月連続、売上D I、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「採算の悪化に伴い、リース会社との契約が拒否されることが多くなってきている」、「11月は七五三だが、関連商品が全く売れない」、「売上が激減する一方、金利の上昇が続き借入金が減少せず厳しい状況」（すべて各種商品卸売業）、「景気の悪化に伴い、年末の進物に利用される果物の売上悪化を懸念」（農畜産水産物卸売業）、「先行きの不透明感から、歳暮商品の売上は厳しい見込み」（食料・飲料卸売業）、「燃料費の上昇は止まったが、売上が低迷し、採算の悪化が続いている」（家具・建具卸売業）といった声が寄せられている。 |
| 小 売 | 業況D I、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月ぶりに縮小した。「景気の先行き不安感が消費に影響し、高額商品・嗜好品の売上が不調」（百貨店）、「消費意欲の低迷により、車両販売は新車・中古車ともに不振」、「売上の悪化に伴い、営業時間を延長する大型店が急増」（ともにその他の小売業）、「原料や包装価格の値上げが続く中で、年末に向けた売上の増加も見込めず、収益確保は厳しい状況」（商店街）といった声がある一方、「食料品は外食からのシフトにより、生鮮食品やお惣菜の売上が好調」、「気温低下の影響で、冬物の衣料品や家電製品、寝具などの売上が好調。ガソリンの値下がりで、市外からの来店者も増加」（ともに百貨店）との声も寄せられている。 |
| サービス | 業況D I、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは横ばいとなった。「夜の来客数が減少し、早々と閉店する店舗も発生」（食堂・レストラン）、「資金難による保険契約の解約や、金融機関から残債の一括返済を打診される店舗も発生」（他の一般飲食店）、「消費者の先行きに対する不安感から、宿泊客数・売上ともに減少」、「金融機関の貸し渋りが顕著になるなど、厳しい状況」（ともに旅館）、「個人タクシーは乗客数が激減し、収益確保が困難」（他事業サービス）といった声が寄せられている。 |

(参考)

【ブロック別概況】

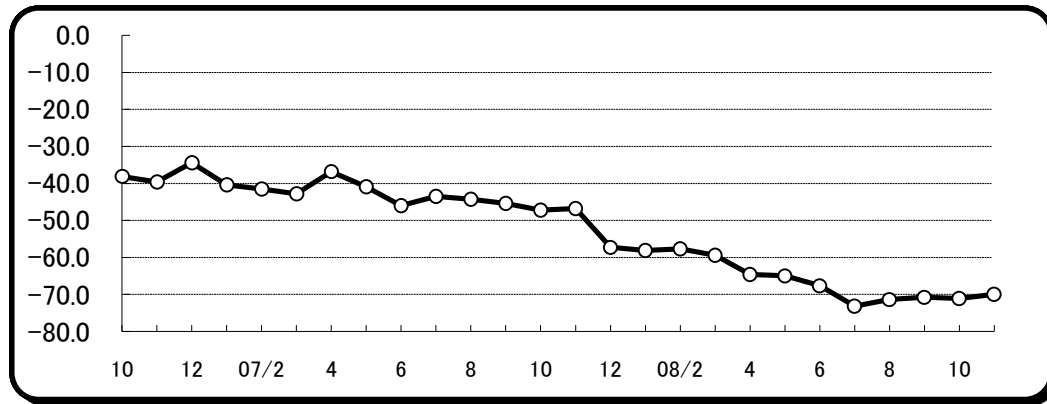
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）は、東北、四国ではマイナス幅が縮小し、関東、東海でほぼ横ばいだったものの、他の5ブロックは拡大した。また、全ブロック合計は3カ月連続でマイナス幅が拡大した。
- なお、業況DIが大幅に悪化した近畿は、家電メーカーの低迷に加え、家具・木製品などの地場産業や小売・サービス業を中心に、消費マインドの冷え込みによる売上の減少、中国は自動車関連の製造業を中心とした受注の減少が、特に影響したものと見られる。
- ブロック別の向こう3カ月（12月～09年2月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

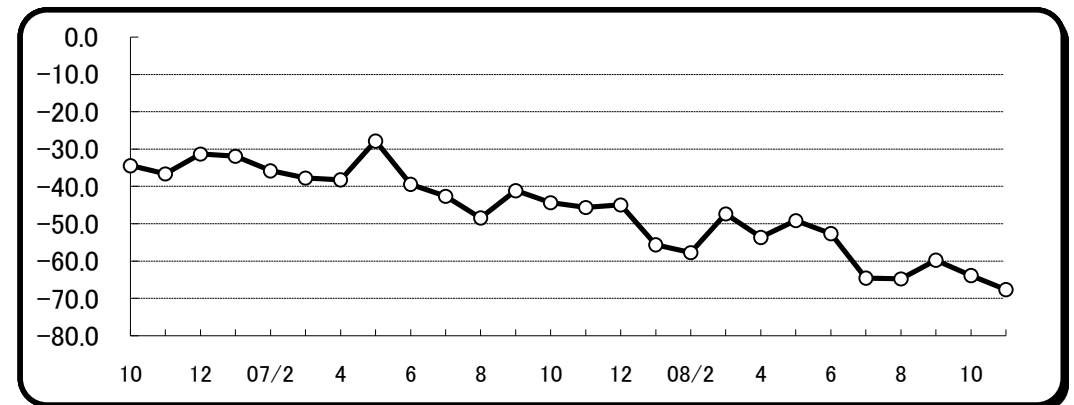
| | 08年 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 先行き見通し 12～2月 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全 国 | ▲ 56.0 | ▲ 60.5 | ▲ 58.8 | ▲ 61.2 | ▲ 64.6 | ▲ 66.7 | ▲ 60.6 (▲ 34.9) |
| 北 海 道 | ▲ 56.2 | ▲ 64.1 | ▲ 55.2 | ▲ 56.1 | ▲ 57.6 | ▲ 58.8 | ▲ 54.1 (▲ 42.5) |
| 東 北 | ▲ 59.7 | ▲ 65.7 | ▲ 66.7 | ▲ 68.7 | ▲ 63.0 | ▲ 61.0 | ▲ 65.9 (▲ 42.6) |
| 北陸信越 | ▲ 55.4 | ▲ 54.1 | ▲ 54.7 | ▲ 52.7 | ▲ 64.9 | ▲ 69.7 | ▲ 63.0 (▲ 37.8) |
| 関 東 | ▲ 56.0 | ▲ 61.9 | ▲ 59.2 | ▲ 60.7 | ▲ 66.4 | ▲ 66.2 | ▲ 59.2 (▲ 27.3) |
| 東 海 | ▲ 56.7 | ▲ 56.0 | ▲ 54.4 | ▲ 58.9 | ▲ 63.6 | ▲ 63.4 | ▲ 60.9 (▲ 34.1) |
| 近 畿 | ▲ 57.9 | ▲ 64.3 | ▲ 64.5 | ▲ 69.4 | ▲ 67.5 | ▲ 74.4 | ▲ 62.1 (▲ 37.2) |
| 中 国 | ▲ 56.2 | ▲ 59.2 | ▲ 55.1 | ▲ 60.0 | ▲ 64.9 | ▲ 74.8 | ▲ 61.8 (▲ 34.1) |
| 四 国 | ▲ 50.4 | ▲ 62.4 | ▲ 56.9 | ▲ 60.6 | ▲ 64.3 | ▲ 60.5 | ▲ 59.7 (▲ 36.6) |
| 九 州 | ▲ 55.2 | ▲ 55.0 | ▲ 58.6 | ▲ 60.3 | ▲ 63.4 | ▲ 66.2 | ▲ 59.7 (▲ 35.8) |

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

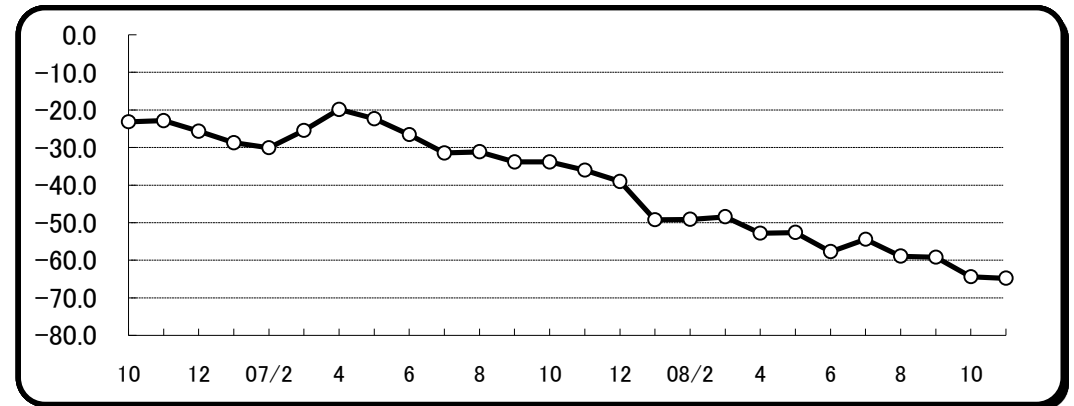
建設業



卸売業



小売業



製造業



サービス業

